

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 6 部門第 2 区分
【発行日】 平成 17 年 9 月 8 日 (2005.9.8)

【公表番号】 特表 2002-514316 (P2002-514316A)
【公表日】 平成 14 年 5 月 14 日 (2002.5.14)
【出願番号】 特願 平 10-532265

【国際特許分類第 7 版】

G 0 3 B 21/00

G 0 2 B 5/32

G 0 3 B 21/56

H 0 4 N 9/31

【F I】

G 0 3 B 21/00 D

G 0 2 B 5/32

G 0 3 B 21/56 Z

H 0 4 N 9/31 C

【手続補正書】

【提出日】 平成 17 年 1 月 19 日 (2005.1.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 補正の内容のとおり

【補正方法】 変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成17年1月19日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

特願平10-532265号

2. 発明の名称

中心縁部間変化特性を有するホログラフィックスクリーンを含む
投影テレビジョン

3. 補正をする者

トムソン コンシューマ エレクトロニクス
インコーポレイテッド

4. 代 理 人

東京都港区赤坂2丁目6番20号

電 話 (03)3589-1201 (代表)

(7748) 弁理士 谷 義 一



5. 補正命令の日付

自 発

6. 補正対象書類名

明 細 書

7. 補正対象項目名

請求の範囲, 明細書



8. 補正の内容

(1) 請求の範囲を別紙の通り補正する。

(2) 明細書第2頁第9行～第10行の

「

$$C(\Theta) = 20 \cdot \log_{10} \left(\frac{red(\Theta)}{blue(\Theta)} \right) \quad (I)$$

$$C(\Theta) = 20 \cdot \log_{10} \left(\frac{green(\Theta)}{blue(\Theta)} \right) \quad (II)$$

」

を

「

$$C(\theta) = 20 \cdot \log_{10} \left(\frac{red(\theta)}{blue(\theta)} \right) \quad (I)$$

$$C(\theta) = 20 \cdot \log_{10} \left(\frac{green(\theta)}{blue(\theta)} \right) \quad (II)$$

」

に補正する。

(3) 明細書第5頁第21行の「選択されるてい」を「選択されてい」に補正する

(4) 明細書第6頁第3行の「他の明るの」を「他の明るさの」に補正する。

(5) 明細書第10頁第1行～第2行の

「

$$C(\Theta) = 20 \cdot \log_{10} \left(\frac{red(\Theta)}{blue(\Theta)} \right) ;$$

$$C(\Theta) = 20 \cdot \log_{10} \left(\frac{green(\Theta)}{blue(\Theta)} \right)$$

」

を「

$$C(\theta) = 20 \cdot \log_{10} \left(\frac{red(\theta)}{blue(\theta)} \right) ;$$

$$C(\theta) = 20 \cdot \log_{10} \left(\frac{green(\theta)}{blue(\theta)} \right)$$

」

に補正する。

以 上

別 紙

請求の範囲

1. 異なる色のそれぞれの画像用の複数の画像プロジェクタと、
少なくとも1つの光透過パネルに重ね合わされた基板上に配設された少なくとも1つのホログラムによって形成される投影スクリーンとを具え、
前記スクリーンは、前記プロジェクタからの画像を第1の面で受け取り、そして制御された光分散で前記画像を第2の面に表示し、
前記スクリーンは、視野を横切って水平方向および垂直方向に変化する光学特性を有する干渉アレイを形成し、
前記光学特性は、ホログラフィック利得、コリメーション、および心合わせの少なくとも1つにおいて変化する、
ことを備えることを特徴とする投影テレビジョン。
2. 前記スクリーンは、少なくとも1つのホログラムと少なくとも1つのフレネル要素とを備えることを特徴とする請求項1に記載の投影テレビジョン。
3. 前記ホログラムおよび前記フレネル要素は、中心点と前記スクリーンの縁部との間で円方向、垂直方向および水平方向の少なくとも1つで変化する光学特性を有することを特徴とする請求項2に記載の投影スクリーン。
4. 前記中心点は前記スクリーンの中央に対応することを特徴とする請求項3に記載の投影スクリーン。
5. 前記中心点は前記スクリーンの中央から垂直方向に変位されることを特徴とする請求項3に記載の投影スクリーン。
6. 前記ホログラムおよび前記フレネル要素の光学特性は前記中心と前記縁部の間で別々に変化することを特徴とする請求項3に記載の投影スクリーン。

7. 前記ホログラムの後方に積み重ねられた少なくとも2つのフレネル要素を備え、前記2つのフレネル要素の少なくとも一方は、線形のレンチキュールを設けたパネルを備えることを特徴とする請求項6に記載の投影スクリーン。

8. 前記少なくとも2つのフレネル要素は、それぞれ、前記視野の垂直スパンおよび水平スパンを横切って変化する光学特性を有することを特徴とする請求項7に記載の投影スクリーン。

9. 前記少なくとも2つのフレネル要素は、それぞれ、視野の垂直スパンおよび水平スパンを横切って変化する焦点距離を有することを特徴とする請求項8に記載の投影スクリーン。

10. 前記フレネル要素は、水平方向に心合わせされ、垂直方向に変位されることを特徴とする請求項9に記載の投影スクリーン。

11. 前記ホログラムは、前記中心点から前記縁部の方へ向かって増大する利得を有することを特徴とする請求項3に記載の投影スクリーン。

12. 前記利得は、前記中心点での約14.8と、少なくとも垂直平面および水平平面の一方の平面内の縁部での22.5との間で変化することを特徴とする請求項11に記載の投影スクリーン。

13. 前記利得は、前記中心点から前記縁部の方へ、前記スクリーンの縦横比に対応するパターンで変動することを特徴とする請求項11に記載の投影スクリーン。

14. 前記中心点は、前記スクリーンの中央に対応することを特徴とする請求項11に記載の投影スクリーン。

15. 前記中心点が前記スクリーンの中央から垂直方向に変位されることを特徴とする請求項11に記載の投影スクリーン。

(以下余白)